

会 議 要 録

名 称	第5回豊橋市ごみ減量推進検討委員会
日 時	令和2年1月17日（金） 午後3時00分から午後4時30分まで
場 所	豊橋市役所 東館12階 123会議室
出席委員	稲田充男委員、山田剛史委員、川本恭久委員、長崎正敏委員、 稲垣ローザ委員、古地英明委員、夏目美鈴委員、鈴木真理子委員、 鈴木幸宏委員、長坂英樹委員
欠席委員	なし
環 境 部 職 員	環境部長 小木曾充彦、環境政策課長 小林正彦、廃棄物対策課長 佐藤実、 収集業務課長 若子尚弘、資源化センター長 提髪宏彰、 施設建設室 主幹 稲垣直樹、埋立処理課長 田邊章裕 環境政策課 課長補佐 井上知之、資源循環グループ主査 三木寅男
内 容	1. 議題 2. その他
議題の概要	議題1 豊橋市のごみ減量施策に対する提言（案）について

第5回豊橋市ごみ減量推進検討委員会会議録

日 時：令和2年1月17日（金） 15：00～16：30

場 所：豊橋市役所 東館12階 123会議室

司会：環境政策課長

○ あいさつ（委員長）

《議 事》

事務局：議題1「豊橋市のごみ減量施策に対する提言（案）について」説明（環境政策課長補佐）

委 員：「リサイクル率の向上に向けて」についてはこの提言内容で良い。

委 員：プラスチックの排出抑制と資源循環について、「とよはしプラ530宣言」に触れているが、現状の取り組みはどうか。

事務局：排出抑制に向けた取り組みについては、市が開催する会議等におけるペットボトル飲料の提供を廃止し、市が自ら率先してプラスチックごみの発生抑制に取り組む姿を通じた市民啓発に取り組んでいる。

また、プラスチック製ストローの発生抑制に向けた、紙製品ストローの普及に取り組んでいる。

資源循環に向けた取り組みについては、リサイクル可能な容器包装プラスチック類がもやすごみに含まれている現状を踏まえ、プラマークごみへの分別排出の徹底を呼びかける市民啓発に取り組んでいる。

その他、具体的な取り組みについて、各委員からの提案を頂きたい。

委員：プラスチックだけで出来た包装など、単一素材のものは分別しやすいが、紙が貼ってあるなど、複数の素材が混ざったものは分別しづらい。分別しやすい製品の利用に着目すると良い。

委員：汚れたプラスチック容器包装はもやすごみという認識が、市民に広く浸透している。かつて、プラスチックは、焼却炉の燃料になるという考え方もあったと認識している。今後の考え方はどうか。

事務局：汚れたプラスチック容器包装は、リサイクルできないため、もやすごみとしている。

市民がしっかりと洗浄すれば、リサイクルはできるものの、現実的とは言えないためである。

プラスチック容器包装のリサイクル量を示すことで、市民が取り組んだ結果を見える化した啓発チラシの配布を予定している。

委員：具体的な取り組みをもっと盛り込んだ提言にすると良い。

プラスチックは利便性が高く、利用の抑制は難しい。生分解性プラスチックへの代替えによる、環境にやさしい製品の浸透に着目すると良い。

生分解性プラスチックの利用により、製品が高価になれば、市民の利用抑制にもつながる。

産官学連携で取り組むと良い。

事務局：ごみ袋などへの導入について、豊橋技術科学大学や企業などと協力しながら検討したい。

委員：プラスチックは悪とする世論が多いが、ペットボトルは法律や企業の取り組みにより、高いレベルでリサイクルができています。

現在の仕組みや市の取り組みをうまく活用して、リサイクルの質を高め

るための啓発に取り組むという視点を持つと良い。

委員：ペットボトルキャップの分別収集など、分別の細分化によるリサイクルの推進と質の向上という視点を持つと良い。

委員：プラマークごみとペットボトルは別々の袋で持ち出すルールだが、収集日が同じであるため、一つの袋に混同されている状況が散見される。分別を促すような集め方という視点を持つと良い。

事務局：収集経費や、ごみステーションへの負荷等とのバランスを図りつつ、市民の協力が得られるようなあり方を検討したい。

委員：「食べられる食品はごみとして出さない」という表現をもう少し柔らかい表現に変えると良い。

委員：食べ残さないなど、食べる側の視点だけでなく、食べられる量だけ作るといった作る側の視点を持つと良い。
また、賞味期限を多少過ぎても調理方法を工夫すれば食べられる。食品をごみにせず済む方法の普及という視点を持つと良い。

委員：食育、教育という視点を持つと良い。

委員：事業系ごみの分別に対するメリットを具体的に記載して、提言に盛り込むと良い。
また、前回の提言についても、継続、推進すべきものは、今回の提言に盛り込むと良い。

委員：前回第4回委員会に引き続いてではあるが、「古紙（コシ）」という名称を「資源紙（シゲンガミ）」といった分かりやすい名称に変えると良い。

委員：新たな名称を公募で募集し、広報とよはしなどを通じて大々的に広報すると良い。

委員：プラマークごみの名称は、いつの間にか変わったという印象が強い。
良い意図を持った変更は、その周知にも力を入れると良い。

事務局：名称は、分別制度全体を検討していく中で、今後考えていきたい。

委員：シュレッダー後の紙類もリサイクルできるのか。

事務局：全ての事業者ではないが、出来る事業者が一定数存在する。

委員：事業者も含めた情報発信の強化に取り組むと良い。

委員：前回提言に、事業系ごみのごみステーションへの不法投棄とあるが、現状の取り組みはどうか。

事務局：法律に基づいた罰則は難しく、お願いという形での地道な指導、啓発に努めている。豊橋駅東側では自治会などの協力もあり、相当改善できたと認識している。

委員：指導に従わない事業者を公表して、見せしめるなど、抑止力を持たせる視点を持つと良い。

委員：飲食店などの営業許可取得の必要書類に、ごみの処理方法に関する書類を加えると、効果的な事業者指導が可能となって良い。

事務局：保健所とも連携を図りつつ検討したい。

委員：家庭系ごみの有料化は、資源のステーション収集の導入や、戸別収集の導入と合わせて検討すると良い。

委員：ごみ処理経費は、市税で適切にまかなわれているという解釈で良いか。

事務局：市のお金でまかなっているが、多額の経費を要している。市民の税金の使い方であり、出来るだけ、ごみ処理ではなく、福祉や教育のために使いたいと考える。

ごみ処理経費は、その削減も含めて継続して検討したい。

委員：様々な情報提供を通じて、市民や事業者に協力を仰ぐと共に、ごみステーションの利用ルールなど、厳しくすべきところはしっかりと取り締まるなど、地域の負荷を踏まえた視点を持つと良い。

委員：ごみステーションの管理やごみの分別啓発に取り組んでいる地域やボランティアを表彰するなど、取り組んでいる団体や個人の意欲を高める取り組みという視点を持つと良い。

事務局：現在の仕組みを活用しつつ、地域の活動が広まるような取り組みを検討したいと考える。

○ その他

特になし